

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和3年5月21日)

- 1 美保基地所属航空機（C-2輸送機）の部品落下について
【市町村課】・・・ 2ページ
- 2 鳥取県×日本財団共同プロジェクトシンポジウムの開催結果について
【県民参画協働課】・・・ 7ページ
- 3 本県出身選手等の東京五輪出場内定について
【スポーツ課】・・・ 9ページ
- 4 株式会社M・Aサービスとの中山間集落見守り活動に関する協定の締結について
【中山間地域政策課】・・・ 10ページ

地域づくり推進部

美保基地所属航空機（C-2輸送機）の部品落下について

令和3年5月21日
市 町 村 課

令和3年5月13日に発生した美保基地所属航空機C-2輸送機の部品落下について、報告します。

1 事案の概要

5月13日、翌14日の飛行のための事前点検を実施した際に、次の部品がないことが確認された。

【落下した部品】

- (1) 品名 右主脚扉スプリング
- (2) 大きさ 直径約4cm、長さ約50cm
- (3) 重さ 約1.5kg

2 美保基地からの説明

5月14日（金）午後2時30分から、美保基地の蛭原監理部長及び酒井渉外室長が地域づくり推進部長を訪問し、事案の概要及び今後の対応を説明した。

（事案の概要）

- ・5月13日（木）午前8時29分から9時31分まで飛行し、同日午後6時35分に翌日の飛行のための事前点検を実施した際に部品がないことを確認した。
- ・スプリングは車輪を格納している部分の扉を開け車輪を出しているときに開いた状態を維持させるもので、飛行中、扉を開け車輪を出しているときに落下した可能性が高い。
- ・基地内の落下の可能性もあるため、滑走路、誘導路及び駐機場を捜索しているが、発見されていない。
- ・当該機以外のC-2全機の点検を行い、異常はなかった。
- ・被害情報は、入っていない。
- ・落下の原因は、製造会社を含め、究明していく。

（今後の対応）

- ・スプリングにワイヤーを取り付け、スプリングを支える部分が折損してもスプリングが落下しないようにする。
- ・点検時、目視のみだったものを手で触っても確認し、点検を強化する。

3 県の対応

美保基地の蛭原監理部長に対して、次のとおり直接厳重に抗議し、別添文書を手交した。

- ・今回の部品落下は、住民の命や生活を脅かす大変重大な事故であり、大変遺憾である。
- ・住民に安心してもらえるよう徹底して原因究明を行い、しっかりと対策をとること。
- ・原因究明や再発防止対策が確保されるまで、同機の飛行を自粛すること。

第 202100044200 号
令和 3 年 5 月 1 4 日

航空自衛隊美保基地司令 與儀 孝 様

鳥取県知事 平井 仲治



自衛隊航空機の安全確保について

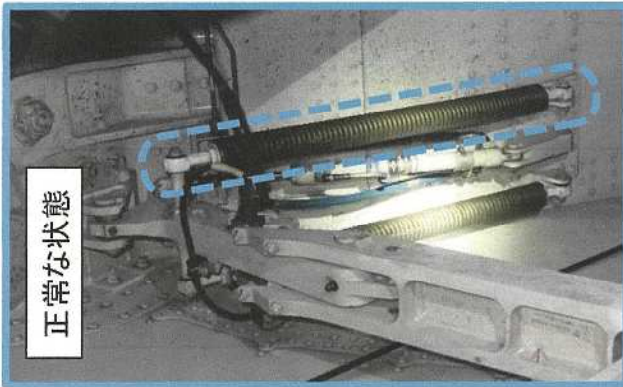
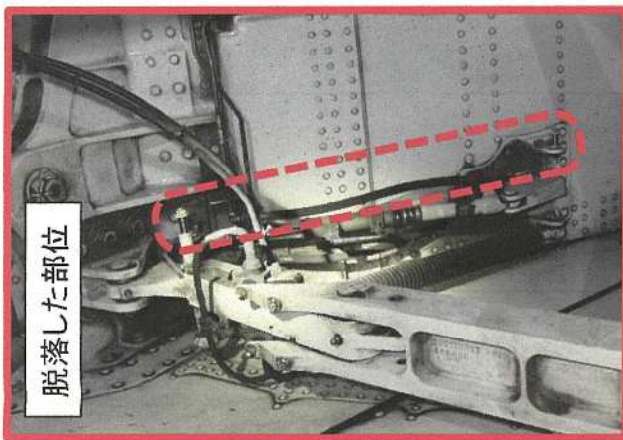
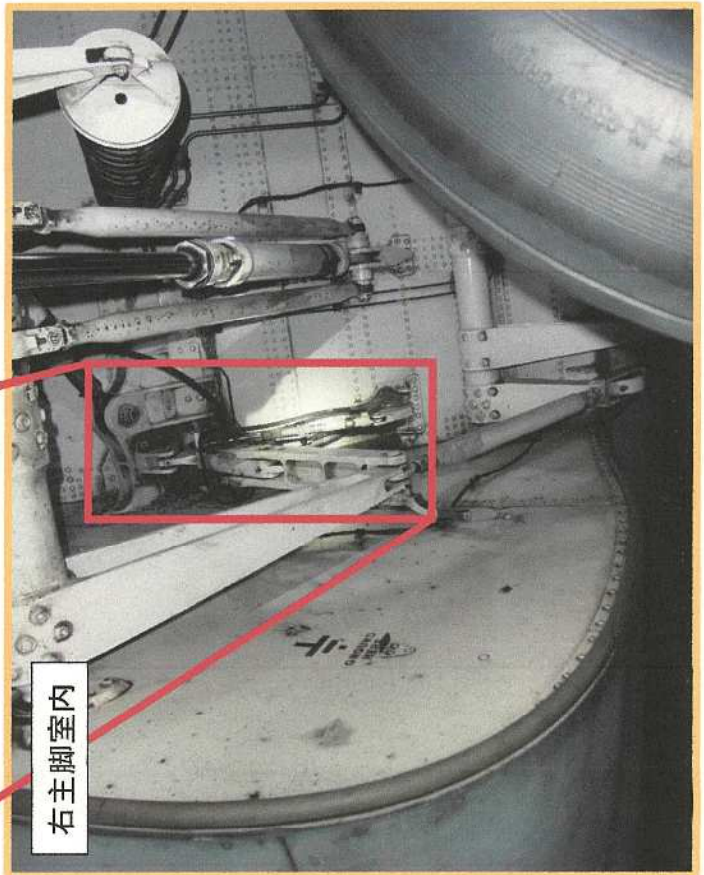
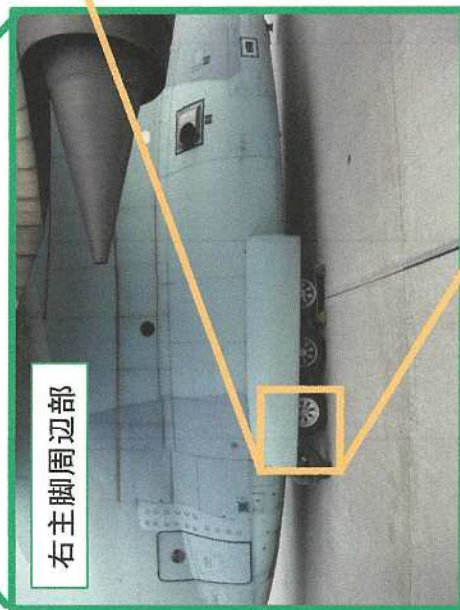
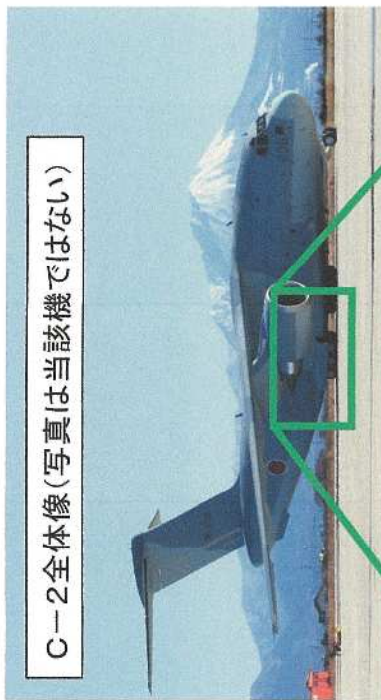
令和 3 年 5 月 1 3 日に航空自衛隊美保基地所属の C-2 輸送機の部品が落下した事案が発生したことが判明しました。

美保基地への航空機等の配備にあたっては、住民の安全の確保のため、安全運航及び地上施設の安全対策に万全を期すことを求めているところですが、本県住民の不安を招くこのような事案が発生したことは、誠に遺憾で嚴重に抗議します。

今後、このような事案が発生することのないよう、徹底的な原因究明を行い、機体の点検確認を徹底するなど万全の対策を強く求めるとともに、これらの対応が講じられるまでは、同機の飛行を自粛することを求めます。

(担当：市町村課 島田 電話 (0857) 26-7055)

C-2 3号機 右主脚後方扉ジュリースプリング脱落

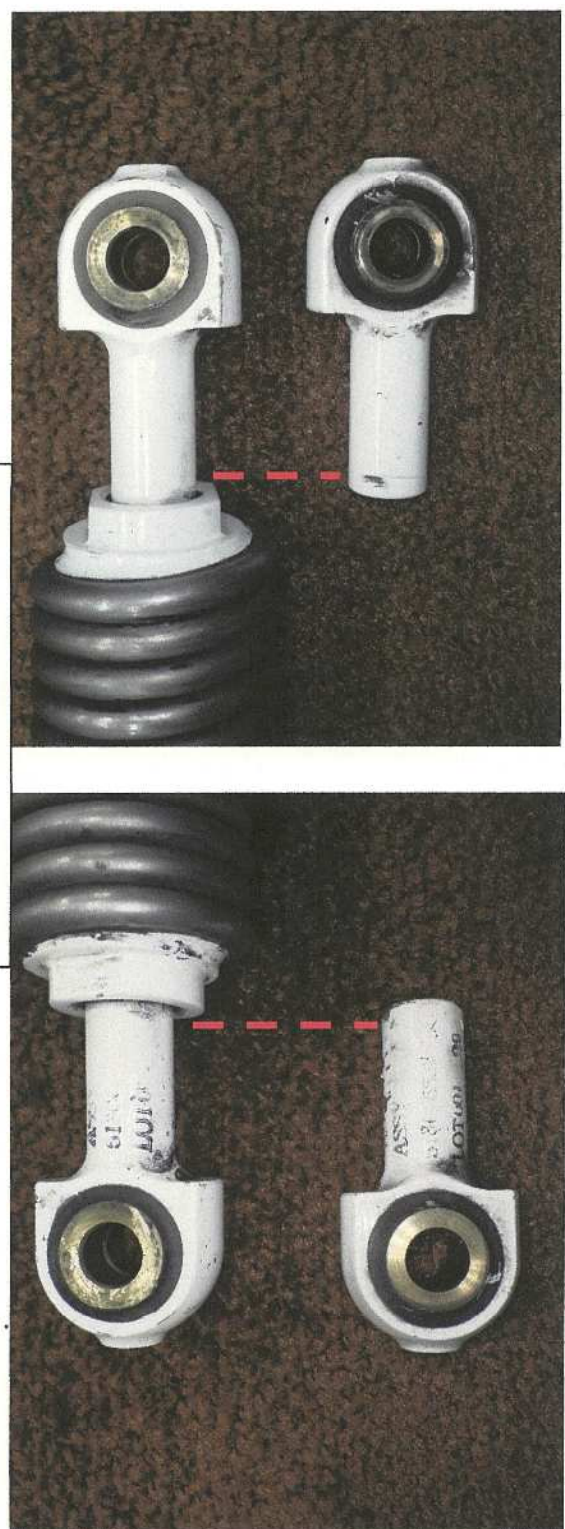


正常なスプリングの状態

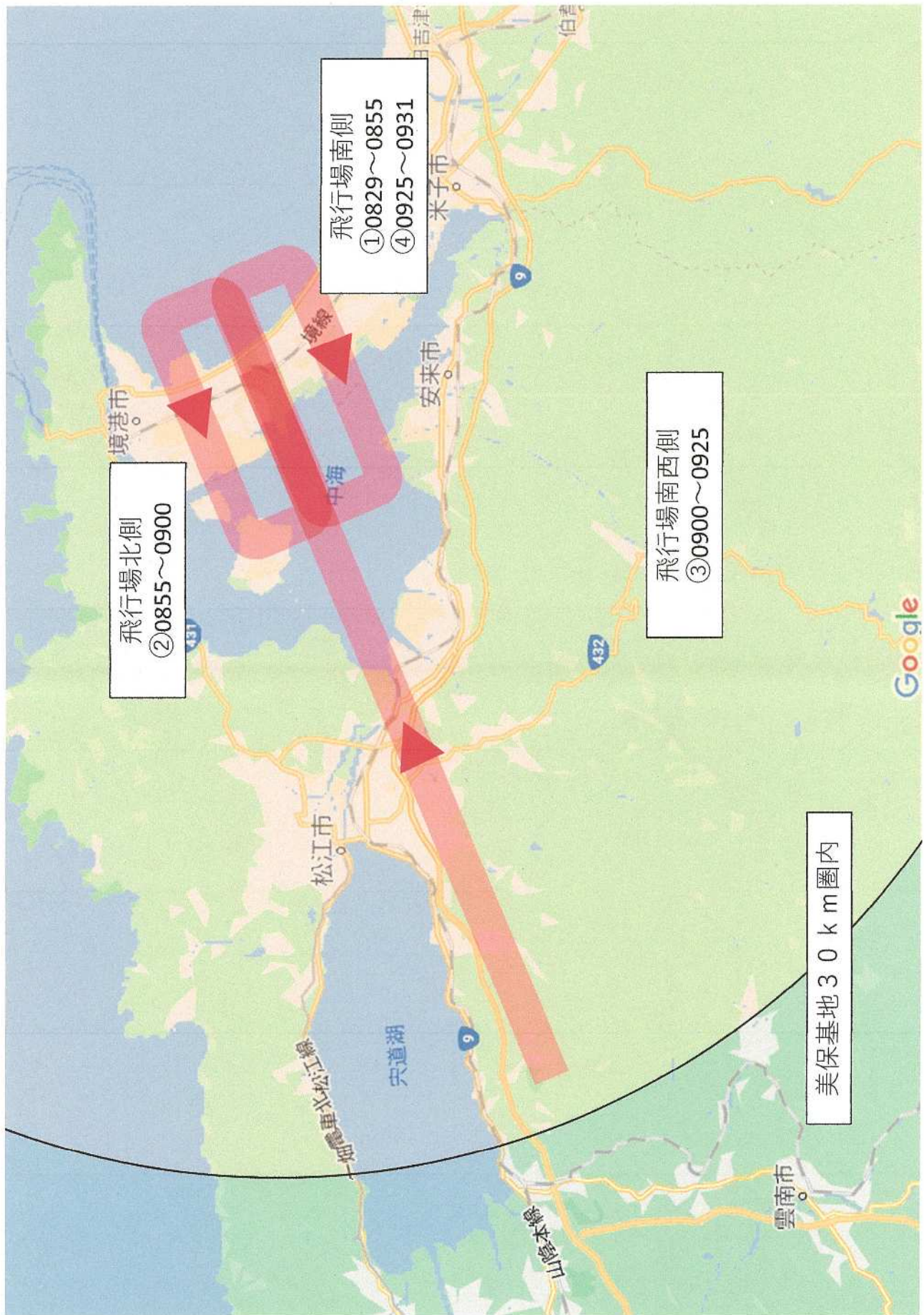


※航空機取付時には両端が引き延ばされ、長さ約50cmの状態
状態で航空機に取り付けられている。

欠損した部品との比較



C-2 203号機 飛行経路 (令和3年5月13日 0829~0931)



鳥取県×日本財団共同プロジェクトシンポジウムの開催結果について

令和3年5月21日

県民参画協働課

「暮らし日本一鳥取県」を目指して、平成27年から5年間にわたり取り組んできた鳥取県×日本財団共同プロジェクトの取組を振り返りつつ、改めて鳥取県における暮らし、ポストコロナを見据えた豊かさの価値を見つめ直し、これからの鳥取について考えるためのシンポジウムを以下のとおり開催しました。

このシンポジウムでの議論も踏まえて、本年度が最後となる日本財団との共同プロジェクトを進めます。

- 1 日 時 令和3年5月12日（水） 午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 場 所 とりぎん文化会館 小ホール（鳥取市尚徳町101-5）
- 3 主 催 日本財団 共催 鳥取県
- 4 参加者 まちづくりに取り組む行政、地域活動団体、地域住民等
- 5 内 容
 - (1) 開会挨拶 日本財団理事長 尾形 武寿 ※オンライン参加
鳥取県知事 平井 伸治
 - (2) 基調講演 「ポストコロナを見据えた分散型社会の在り方」
京都大学こころの未来研究センター教授 広井 良典 ※オンライン参加
 - (3) 映像紹介、取組概要説明 取組紹介ビデオ上映（日本財団作成）、県補足説明
 - (4) パネルディスカッション【1部】「地方創生、鳥取プロジェクト～これまでの5年間を振り返る～」
モデレーター：株式会社イミカ代表 原田 博一
パネリスト：アマゾンラテルナ鳥取大山オフィス代表 貝本 正紀
慶応義塾大学 SFC 研究所長 玉村 雅敏 ※オンライン参加
とっとり県民活動活性化センター常務理事兼事務局長 毛利 葉
日本財団鳥取事務所長 木田 悟史
 - (5) パネルディスカッション【2部】 「これからの鳥取を考える～市民一人一人が公の担い手に～」
モデレーター：株式会社イミカ代表 原田 博一
パネリスト：N.K.C ナーシングコアコーポレーション合同会社代表 神戸 貴子
京都大学こころの未来研究センター教授 広井 良典 ※オンライン参加
株式会社新日本海新聞社編集制作局参与論説委員長 森原 昌人
日本財団鳥取事務所長 木田 悟史
 - (6) 閉会挨拶
鳥取県×日本財団共同プロジェクト顧問団会議 団長
(株式会社不二家代表取締役会長) 山田 憲典 ※オンライン参加

6 開催結果

(1) 参加状況 約150名（うちオンライン参加 約50名）

(2) 主な発言内容

ア 開会あいさつ（尾形理事長）

- ・日本財団は、これまでの5年間の集大成として、そこに暮らしたいと思う住民の皆様に密着して頼られる存在となる「在宅看護センター」を鳥取に創りたいと考えている。暮らし日本一を掲げて誰もが暮らしたくする地域づくりに今後も協力をお願いしたい。

ア 基調講演（京都大学こころの未来研究センター教授 広井 良典）

- ・ 人口減少社会はむしろチャンス。物質的な豊かさから本当の豊かさへのスタートとなる。経済が大きくなる過程で幸福度が上昇するが、成熟するとそれ以外の要素が重要となる。
- ・ AI を活用して 2050 年の社会を展望すると、日本社会の未来にとって東京一極集中より、持続可能性や健康、幸福、格差の観点からは地方分散型が望ましいという結果となった。
- ・ 望ましい未来となるために何が必要かをバックキャスト的に捉えると、分散型社会づくりのためには、循環型経済の仕組みづくりが重要と判った。
- ・ ドイツの地方都市のように福祉・環境・まちづくりを一体的に考えていくべき。

イ パネルディスカッション 第1部 テーマ：共同プロジェクトの5年間を振り返る

- ・ 地域づくりに関わっている人の多くは高齢者で若者の姿が無い。大半の方は地域のことを「自分ごと」にしていないと感じた。大山テレビ部ではテレビを通じて今まで出てこなかった人を引っ張り出せた。様々な人が出てきたことで面白い人を見つけられた。
- ・ 鳥取ではコミュニティ毎にユニークな活動や人が居るがつながりが無い。他のコミュニティの活躍を知らない。コミュニティの中だけで閉じていて、もったいないと感じる。
- ・ 先に目的やビジョンを立てて、そこに人を集めるより、先に人を集めてからプロジェクトが自然発生する方が鳥取県の県民性に向いているのではないかと思う。
- ・ 「人」に寄り添って「人をつなぐ」しくみづくりが大切。共助交通も運営資金支援では無く、人をつないだり、コーディネータの存在が大きかった。
- ・ 公共と市民の二項対立では無く、民間も加わることが必要。そのためには、つながる要素が重要であり、相互に影響し合うことで活動を加速させられる。

ウ パネルディスカッション 第2部 テーマ：これからの鳥取を考える

- ・ 以前に独自アンケートを行った。鳥取にUターンしない理由に「魅力的な企業がない（45%）」のほか、気になる項目として「家族・親族の介護に関わる不安（16%）」が寄せられた。介護不安を払しょくするための介護教育が必要ではないか。
- ・ 親孝行代行サービスを行うことで公共の福祉制度ではカバーしきれない部分を補ってきた。介護サービスには地域づくりの側面もある。今、人口減少時代の流れから地域への関心が高まってきている。これまでの学校+社員教育から学校+地域教育を重視すべき。
- ・ 多様な共助交通の形を試行錯誤するなかで、無償で続くのだろうかとの不安もある。特に福祉=無償ボランティアの価値観を改め、有償で行う方法も検討する必要がある。
- ・ 日本全体として単純な「分散」ではなく「多極集中」的な構造を創ることが必要ではないか。そのため、若者のローカル志向の流れを止めない支援が必要。
- ・ 行政も限界に来ている。「公共が行ってきた取り組みを少しずつシェアしていく」しくみづくりが必要ではないか？
- ・ 民間企業と地域が連携した「リビング・ラボ」という考え方もある。民間の資源を活用した地域づくりが重要ではないか。
- ・ 「過疎」とは「公共と市民と民間が近い距離にある」地域資源と捉え直してはどうか。
- ・ 共助を発展させる、人が社会に貢献している実感が持てることが必要。行政がその土台となる公的支援を連携させることが重要なポイントになる。

(参考) 当日の開催内容は Youtube 映像として以下のアドレスでご覧いただけます。

<https://youtu.be/qBxtv7aQKM4>

- 7 その他 同日とりぎん文化会館では、共同プロジェクトによる障がい者の工賃向上の取組等を全国へ発信する「工賃向上フォーラム 2021in とっとり（主催：鳥取県障害者就労事業振興センター）」を開催しました。

本県出身選手等の東京五輪出場内定について

令和3年5月21日

スポーツ課

本県出身の^{とみたちあき}富田千愛選手（米子市出身、米子東高・明治大院卒、関西電力）が、令和3年5月7日（金）に海の森水上競技場（東京都江東区）で行われたボートの東京五輪アジア・オセアニア予選において好タイムで優勝したことが評価され、女子軽量級ダブルスカルで、リオデジャネイロ大会に次いで2大会連続の東京五輪出場内定を決めました。

同じく、鳥取県スポーツ協会所属の^{せがわかずまさ}瀬川和正選手（大阪府出身、浪花高・龍谷大卒、鳥取県スポーツ協会）が、令和3年5月10日（月）から14日（金）まで、葉山ヨットハーバー（神奈川県葉山町）で行われたフィン級東京五輪代表選考大会において優勝し、鳥取県で初めてのセーリング競技での東京五輪出場内定を決めました。日本からセーリング（フィン級）で五輪に出場するのは、初めてとなります。

《富田選手》

【アジア・オセアニア最終予選での戦績：女子軽量級ダブルスカル】

- ・予選 5/6（木）予選通過（全体1位） 8分10秒49
- ・決勝 5/7（金）優勝 7分15秒84

【富田選手が出場する東京五輪ボート競技：女子軽量級ダブルスカルの概要】

- 期間 2021年7月24日（土）8：30～12：30 予選
7月25日（日）9：00～11：40 敗者復活戦
7月27日（火）8：30～12：00 準決勝A、B、決勝C
7月29日（水）8：30～11：50 決勝A、B、表彰式 日本ボート協会提供

○会場 海の森水上競技場（東京都江東区）

○競技概要 オリンピックでは歴史が古く、第2回パリ1900大会から実施されており、女子はモントリオール1976大会から行われている。スカルはオールを右手と左手に1本ずつ、合わせて2本持って漕ぐ競技。女子軽量級は、漕手各人が59.0kg以下で平均体重が57.0kg以下。



《瀬川選手》

【五輪代表選考会での戦績：男子フィン級】

順位	名前	所属	合計ポイント
優勝	瀬川 和正	鳥取県スポーツ協会	11
2位	西尾 勇輝	和歌山県立医科大学	25
3位	藤村 裕二		33
4位	國米 創	Eyevan	38



※瀬川選手は全12レースで1位獲得。順位はポイントが少ない順に決定される。

撮影／平井淳一

【瀬川選手が出場する東京五輪セーリング：男子フィン級の概要】

- 期間 2021年7月27日（火）12：00～18：00 予選
7月28日（水）12：00～18：00 予選
7月29日（木）12：00～18：00 予選
7月31日（土）12：00～18：00 予選
8月1日（日）12：00～18：00 予選
8月3日（火）14：30～16：55 決勝、表彰式

○会場 江ノ島ヨットハーバー（神奈川県藤沢市）

○競技概要 セーリングのオリンピックにおける歴史は古く、第2回パリ1900大会から実施され、シドニー2000大会から現在の「セーリング」が競技名となっている。フィン級は1952年ヘルシンキ五輪から採用された1人乗り艇。100kg級の大柄男子の活躍するクラス。

株式会社M・Aサービスとの中山間集落見守り活動に関する協定の締結について

令和3年5月21日
中山間地域政策課

中山間地域に暮らす高齢者など住民の安全・安心な暮らしを守るため、株式会社M・Aサービス、県内8市町村及び鳥取県は、中山間集落見守り活動に関する協定を締結し、次のとおり締結式を行いました。

1 日時 令和3年4月27日（火）午後2時から

2 場所 米子コンベンションセンター 第3会議室

3 出席者

株式会社M・Aサービス 代表取締役社長 小谷 幸之介（こだに こうのすけ）氏
米子市 福祉保健部長 大橋 賢二（おおはし けんじ）氏
鳥取県 西部総合事務所長 吉村 文宏
※協定参加市町村の合意に基づき米子市が代表して署名し、他の7市町村分は別途、同日付で作成する。



4 協定内容

(1) 見守り活動の内容等

対象地域において、社員等が事業活動時に高齢者の異常等を発見した際に市町村へ連絡する。

〔対象地域〕米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日野町、江府町のうち、事業者が日常的に業務を行う地域

(2) 協定期間

令和3年4月27日から令和4年4月26日までの1年間
(以後、協定締結者から終了の意思表示がなければ1年間更新)

【参 考】

- 協定締結の状況 今回の協定締結によって計72事業者となる。
- 見守り活動の通報事例
 - ・移動販売車で移動中、側溝にはまって倒れている女性を発見し、救急車を手配。病院搬送され、その後女性は助かった（H25年 南部町）
 - ・移動販売の最中に玄関先で倒れている家人を発見。救急車で搬送され一命をとりとめた（R2年 日野町）

■株式会社M・Aサービスの概要

社 名	株式会社M・Aサービス
所 在 地	鳥取県米子市夜見町2946
事 業 内 容	弁当の製造宅配業、デイサービスの給食受託事業等
設立年月日	平成18年12月11日
従 業 員 数	社員11名 パート従業員64名